

一手一つ

2014年(平成26年)
1月26日
第2号

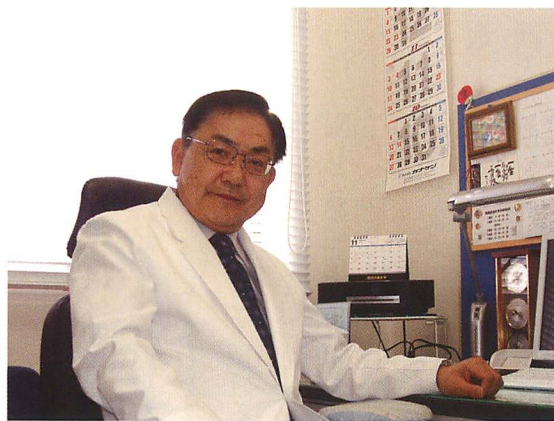
天理医学技術学校同窓会報
発行所:〒632-0018
奈良県天理市別所町80-1
天理医療大学内
天理医学技術学校同窓会事務局
TEL: 0743-63-7811
www.teniko-dousoukai.jp

回の改正が行われ、現在行われているカリキュラムは、平成12年度(2000年)から施行されているものです。その前の改正時に教育施設協議会(全国の学

『臨床検査学』について

天理医学技術学校同窓会長

市村輝義



第2期生
関西医療大学保健医療学部 教授
前 天理医学技術学校 副学校長

して、今日に至り、明年3月に発展的閉校となり、『天理医療大学』へバトンタッチということになります。

最近、『臨床検査学』という単語が頻繁に使われるようになりました。「臨床検査学講座」「臨床検査学標準講座」「臨床検査学科」「臨床検査学教育」「日本臨床検査学教育協議会」等々

私は40年ほど前に検査技師教育に、足を踏み入れました。教育を始めて最初の疑問は、「臨床検査は検査学として成立するのだろうか?」ということでした。教育は学問体系がしっかりしていなければ、説得力のある教育は出来ないと直感し、臨床検査学の構築と教育学に興味を持つようになりました。

臨床検査技師の教育カリキュラム(厚生労働省指定規則)は、今まで4

校の集まり)でのカリキュラム素案作りに参加し、「臨床検査学」という単語を始めて使用したカリキュラムを提案しましたが、「そのような学問はない。」と一蹴されました。しかし、天理医学技術学校では、その当時から「臨床検査学総論」を設定し講義を行い、現在の大学(関西医療大学)でもその名称で講義を続けているようです。

その後、改正された指定規則(カリキュラム、現行)でも、素案作りに参加し、ようやく、専門分野が「検査学」(生物化学分析検査学、形態検査学、病因・生体防御検査学、生理機能検査学など)と分類され、個々の科目名を「化学検査学」「微生物検査学」「免疫検査学」「血液検査学」などと標記されるようになりました。

「検査学」としての学問体系の確立は、まだスタートしたところですが、臨床検査学科を設置する大学が増えていく現状を踏まえ、ますます臨床検査学の教育研究が必要と思われれます。特

に専任教員は、自分の専門分野の教育や研究ばかりではなく、技師教育全体を見回すことも必要なことだと思います。医師(医学部)の教育研究が「日本医学教育学会」で行われているように、臨床検査技師の教育についても「日本臨床検査学教育学会」の中でも、もう少し積極的に討議して欲しいものです。

次回の第3号は、「天理医学技術学校」の閉校に伴う特別企画を予定しています。平成26年3月22日(土)には「閉校式」が行われる予定になっているようです。同窓会としては特に催しは行いませんが会員も多く参集していただければ幸甚に存じます。



天理教会本部

閉校式と閉校記念誌のお知らせ

平成25年12月10日付で天理医学技術学校より閉校式に関するご案内が届いており、真柱様のご臨席を頂き平成26年3月22日(土)に閉校式典が行われることはご存知のことと存じます。卒業生の皆様には閉校式典への出欠に関してはがきでご返事を頂いている状況です。返信されてきた枚数の約1割程度が出席して頂ける予定で、何かとお忙しいとは思いますが、可能な限りご参加頂きますようお願い申し上げます。

また、「閉校記念誌」に関しては、掲載予定の原稿がほぼ集まった状況で、挿入する写真の選別も終わり、印刷費用の見積りが出てきた状況です。ただ、45期生の卒業式の集合写真および閉校式関係の記事と写真を入れる予定でありますので、印刷完成は6月頃の予定です。

平成25年9月現在の資料で臨床検査技師の国家試験を受験できる学校は全国で79校ありますが、その内訳は四年制大学50校、短期大学5校、専門学校24校という状況です。高校生の四年制大学志向が強くなり、専門学校へ優秀な学生が来ないという現実が年々著明となり、専門学校か

ら四年制大学への移行は時代の流れと感じています。医療系の職種の中でも国家試験の合格率が他の職種より低く、要求される知識は年々増加する状況においては、レベルを維持していくためにも必要な措置だと考えております。この状況の中で、天理医学技術学校の歩んできた道のりと実績を後世に残せるように記念誌は編集されています。同窓生の全ての方々にご満足頂くのは無理かと思いますが、ご賛同頂けるように努力してまいりましたので、楽しみにして頂きたいと思えます。(木寺英明)



天理医学技術学校 新校舎

天理医学技術学校国家試験の歩み

天理医学技術学校

教務主任 木寺英明

天理医学技術学校の最近の国家試験の合格状況は、臨床検査技師国家試験では7年連続(検査科38期生、44期生)全員合格、臨床工学技士国家試験では12年連続(専攻科1期生、12期生)全員合格しています。自分が勤める学校を褒めるのは気が引けますが、これはすばらしい記録だと思います。今回同窓会役員会より国家試験について書く機会を頂きましたので、国家試験合格率から過去の歴史を振り返ってみたいと思います。

回実施されていたこともあり、資格がなくても就職できたこと等も影響して、国家試験合格は国試の難易度や本人の努力の違いにより決まっていたように思います。

図(3ページ)は臨床検査技師国家試験の検査学科1期生から44期生までの本校と全国の合格率をグラフにしたものです。どの期の学生も国家資格を得たいと思いい努力はしているのですが、資格がなくても就職出来たこと等の時代的背景や国家試験出題の仕方の変遷等により大きく3つに区分できます。

第1グループは1期～16期までで、この時期は臨床検査技師の数が不足していた時代で国家試験も年々

第2グループは17期～33期までで、17期生が全員合格したのは天理教祖100年祭の年でした。100年祭のきしんを国試直前の1月下旬まで行い授業時間は少なかつたのですが、見事ご守護も頂き全員合格できました。先輩達の頑張りを見習いこの年から5年連続100%合格を達成しております。この背景には年々2回実施されていた国家試験が19期受験の年より年1回となりました。また、科目免除の受験制度(4科目受験で合格すれば免許取得)が撤廃され、受験者全員が全科目を受験して合格しなければ免許を取得できなくなったのは21期受験の年からで、カラー写真による出題が始まったのも22期受験の年からです。臨床検査技師の質の向上が叫ばれる時代となり、全国の合格率が上昇し70%を超えるまでになってき

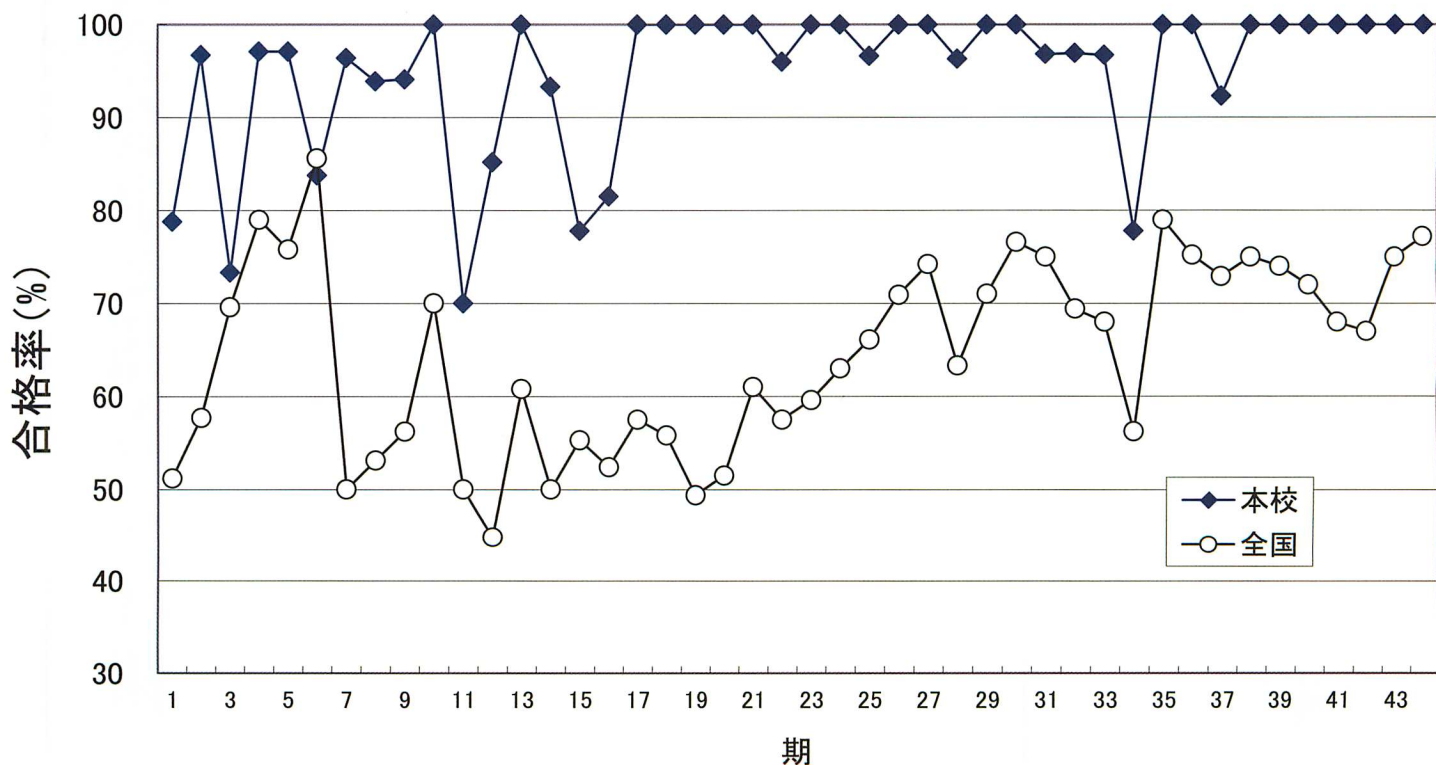
ました。15期あたりから学校として国家試験対策授業が始まり、徐々に国家試験に対する教員および学生の意識改革が行われていきました。この時期より科目別の国家試験対策ノートを各自で作成するようになりましたが、なかなか思うようには模擬試験の結果も上がらず苦勞していたのを思い出します。

第3グループは34期〜44期までで、34期が受験した年の全国合格率は56.2%でした。これより低い合格率は過去にもみられますが、科目免除の受験制度があった時期は受ければラッキーという軽い気持ちで受験する人が多く合格率を上げていましたが、21期以降、全科目受験となつてからは最低の合格率でした。これには理由があります。34期が受験した国家試験は国家試験出題基準(ガイドライン)に基づいた出題が開始された最初の年でした。すなわち国家試験出題者は過去の問題をあまり参照せずに、出題基準に基づいた新傾向の問題を多く出題したことが大きな要因でした。また、五者択一ではなく、5つの選択枝から組合せなしに2つを選ぶ問題が全体の30%以上出題されたことも合格率を下げた要因でした。34期の結果は後輩には危機感を与

え、国家試験対策も早い時期から真剣に取り組むようになりました。この時期からは学校教員が作成した国家試験要点集や過去10年間の国家試験問題集を学生全員に配るようになり、それを教材として早くから国家試験対策に取り組むようになりました。

臨床検査は日進月歩で進歩していき、それに伴い要求される知識はどんどん増えていきます。私が受験した頃の問題と最近の問題を比較しても知識量にはかなりの差がみられます。また、国家試験の各学校の合格率が厚生労働省から学校名入りで発表されるようになり、受験生確保の目的でも各学校も学生の自己責任では済まなくなつてきているのも現実です。どこの学校でも国家試験対策に力を入れるようになってきましたが、やはり全員合格は至難の業だとよく耳にします。国家試験合格率だけで学校の評価が決まる訳ではありませんが、国家資格取得を目的に入学してきた学生の要望に答えることは学校としての責任を果たす意味で重要なことと思ひ、本校最後の45期生全員合格を目指して学生は勿論、教職員一同頑張っております。

臨床検査技師国家試験合格率



施設便り

奈良県立医科大学病院 第19期生 森嶋良一

今回、私が勤務します奈良県立医科大学附属病院を紹介させていただきます。

当院は「おちば」のある天理市より南西に約10Kmに位置する奈良県橿原市(人口約12万人)のほぼ中心にあります。昭和20年4月に奈良県立医学専門学校附属病院(8診療科215床)として開設され昭和22年7月に奈良県立医科大学附属病院に名称変更されました。

平成19年4月に、地方独立行政法人「公立大学法人 奈良県立医科大学」に移行し、現在は22診療科、中央部門10、センター6、病床数978床で稼働しています。

県民の皆様の健康に寄与し、安全で質の高い先進の医療を提供する基幹病院として存在しています。

私が所属する中央臨床検査部は昭和35年に発足し今年で53年を向かえました。

中央臨床検査棟は昭和43年3月に竣工されましたが、老朽化に伴い現在新中央臨床検査棟が建設中です。

学内では中央臨床検査部、輸血部、病院病理部、中央超音波部、中央内視鏡部、外来診療科、



臨床医学教室、基礎医学教室に臨床検査技師が所属し、現在約75名の臨床検査技師が院内で勤務しています。奈良県に所在する病院であることもあり天理医学技術学校の卒業生が最も多く、昨年春に4期生の佐野麗子氏、今年春に5期生の今井竜子氏、田中京子氏が定年退職されました。現在は約25名が在職し日々頑張っております。

私は天理高校から天理医学技術学校に進学し、6年間「おちば」で学ばせて頂きました。

当院で働く卒業生がこれからも天理で学んだ事を心に刻み、「医療よぶべく」として、天理医学技術学校卒業生として、「一手一つ」の心で頑張つてまいります。

平成24年

同窓会事業報告・会計報告

天理医学技術学校同窓会役員は昨年4月、ウエディングパレスコトブキで開催された総会において改選され1年間活動させていただきました。本紙面におきまして平成24年4月1日～3月31日までの活動報告をさせていただきます。

一、役員会議開催

次の通り計4回開催しました。

○第1回役員会

平成24年7月21日
14時～16時30分

天理医学技術学校 演習室3

出席：市村、木寺、長岡、脇本、

小松(書記)

欠席：福田、森嶋

会議内容

- ①役員ごとの引き継ぎ状況の確認
- ②天理看護学院同窓会と大学看護学科卒業生との関わりについて検討
- ③「記念誌」(天理医学技術学校48年の歩み)の発行を検討

○第2回役員会

平成24年9月1日
14時～16時30分

天理医学技術学校演習室3

出席：市村、木寺、長岡、脇本、

福田、小松(書記)

欠席：森嶋

会議内容

- ①ホームページ作成ソフトの新規購入を決定
- ②会報発行の算と印刷会社の決定、原稿執筆者決定
- ③記念誌作成の進捗状況報告

○第3回役員会

平成24年10月31日
18時～20時

天理医学技術学校演習室3

出席：市村、木寺、森嶋、脇本、

長岡、小松(書記)

欠席：福田

会議内容

① ホームページリニューアル完成
報告、天理医学技術学校HPと
のリンク完成

② 会報「一手一つ」のレイアウト案の
検討

③ 記念誌発行の件。各期の卒業写
真と写真に写っている名前の原
稿が完成

○第4回役員会

平成24年12月26日

18時30分～20時

天理医療大学305研究室

出席：市村、木寺、長岡、

小松(書記)

欠席：福田、森嶋、脇本

会議内容

① 会報「一手一つ」最終校正

二、会報「一手一つ」創刊号発行

平成24年9月より脇本、小松にお
いてイラストレーターを使用して紙
面の割り付け作業を行い、印刷会社
プリントパックへ発注。平成25年1月
に佐川急便より発送を完了した。同
時に会報返送者一覧の作成した。

三、同窓会ホームページの更新

長岡幹事を中心に<http://www.tenri-dousoukai.jp/>のリニューアルを
検討し、平成24年11月1日に新ホー
ムページをリリースした。

四、同窓会Facebook
公式ページと会員限定ページの
作成

世界的シェアをほこるSNS(ソ
シヤルネットワーキングサービス)で
あるFacebookに、長岡幹事を中心
に公式同窓会専用ページを作成。平成
24年6月5日リリースした。同窓会
ホームページからもリンクしている。
自由に書き込みを可能とし、「いいね
」をクリックしているのは66名(10月30
日現在)いる。

また同窓会の近況報告や、就職案
内を目的として同窓会会員限定用
ページをFacebook内に平成24年9月
23日リリースした。会員であれば任
意にこの限定ページに追加できるよ
うに設定している。現在70名(10月30
日現在)の同窓会会員が登録されてい
る。

五、平成24年度会計報告

平成24年度は下記表の通りの収支
となった。

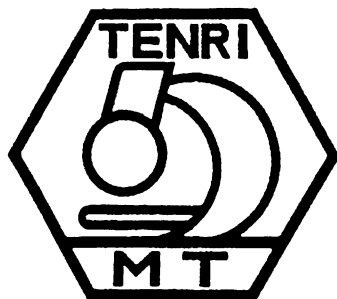
平成24年 天理医学技術学校同窓会 会計報告

収入の部

44期生会費(¥4,000×25名)	100,000
利息	561
前年度繰越金	3,554,848
合計	3,655,409

支出の部

ホームページ管理料(¥2,625×12ヶ月分)	31,500
H24年度医療大学入学式花代	20,000
H24年度医療大学入学式祝電代	2,000
平成24年度3校合同文化祭(天医祭)準備費補助金	50,000
PCソフト購入代(ホームページビルダー)	12,075
PCソフト購入代(Illustrator CS6)	25,305
同窓会報 印刷代 1500部(8ページ)	26,450
同上 振込手数料	315
同窓会専用封筒角2サイズ 印刷代 5000部	50,200
同上 振込手数料	525
同窓会報 郵送代(佐川急便)	143,514
PCソフト購入代(Photoshop)	36,330
同上 振込手数料	210
天理医学技術学校第44期生、専攻科12期生卒業式 花束代	5,000
次年度繰越金	3,251,985
合計	3,655,409



天理医学技術学校
校章

共に歩んで

元 天理よろづ相談所病院臨床病理部

技師長 山中 亨



天理医学技術学校同窓会の皆様、同総会の度にお声掛けを頂きましたことを深く感謝申し上げます。今日まで臨床病理部と天理医学技術学校が相携えて共に歩んできたことが想い出されて参ります。たくさんの人達の顔が浮かんできます。

平成25年7月16日(火曜日)午前10時30分、1クラスになった校内にチャームが流れた瞬間でした。天理医学技術学校の「検査運営管理」の最後の授業の終了時間でした。大きな感慨に包まれながら最終講(臨床検査と臨床検査技師の将来展望)を終えて、「立派な医療人を目指して下さい」と声をかけて教室を後にしました。44

年間続いた天理医学技術学校への出向最後の日でした。憩の家を退職してからもずっと10年間引き続き務めさせていただいたことが、一層責務の大きさを感ずる出向でした。

前天理医学技術学校副校長市村先生が学校へ移られてから、「検査管理総論」をテーマに共にずっと考えたことが思い出されます。幾度となくお話をしながら、病院にとつてどのような技師が必要なのか、何が出来るのか、技師の素質に必要なものは何か、卒業してきた技師の力量が向上出来るようにとも考えながら、恩師高橋浩先生のお言葉を基本的な信念として、理想的な臨床病理部に成長したいという本音が共鳴していたと思います。今では正規な科目「検査運営管理学」として定められています。

平成25年春の叙勲に際して、瑞宝双光章受章の栄に浴しました。4月30日に奈良県庁において荒井正吾知事より勲記、勲章の伝達を受けました。5月10日には皇居において家内共々天皇陛下に拝謁と緊張の連続で

こんな同窓生もいました

元 天理よろづ相談所病院臨床病理部

第2期生 木田光雄



第2期で入学、親元を離れて羽を伸ばした寮生活。昼間は病院でアルバイト、夜間は木造校舎での講義。勉強はさておき、「この学校の伝統を創るんや」と、衛検新聞発行、運動会、球技大会、ダンス、パーティなど多彩な行事(あそび)を企画。

した。奈良県においては臨床検査技師では初の受章であり、臨床検査が医療の中で果たしてきた実績が評価されたものと思います。これからも続いて臨床検査技師が受章されるよう祈っています。天理の同窓生が全国の要所で活躍している姿が目に見えています。皆様の一層の飛躍を心よりお祈り致しております。

昭和45年秋、憩の家人所。平成23年3月の退職まで多くのことに関わる。心電図、心カテ介助など循環器検査、腹部超音波検査、緊急検査室、受付業務、透析業務。それに地域医療連携室配属、地域がん診療連携拠点病院庶務業務、医療安全推進部会庶務、包括的ケア管理委員会事務局。ほかに院内レクレーション委員会など福利厚生関係委員会に携わる。毎年8月に無医村巡回診療参加。昭和51年、第7次ラオス巡回医療隊にピンチヒッターで参加。平成7年の阪神淡路大震災時、憩の家第1次医療隊員として神戸へ。昭和59年から平成18年まで県技師会活動に参画(幹事、広報理事、事務局長)。「CPの便利屋」昭和49年、医学技術学校専任教員になった。学業落ちこぼれた私、まさかと思つた。大したことはできない、快適な学生生活が送れる環境づくりの手助けをしようと決めた。担任の10期生が国家試験現役100%全員合格した。本校初だった。

還暦過ぎて思う。①発想の原点、も

のの見方、考え方。経験したことがこれを培う。より適切な判断。②出会いを大切に。学生時代は絆を広く強くもてるチャンス。全国からの友達、利害関係なく付き合える。③大いにやるう、ボランティア活動。「人たすけたら我が身たすかる」・・・そこまで考えるか、まずは自己満足から。

私の天理での40年を顧みて

元 天理よろづ相談所病院臨床病理部
第5期生 岩谷一雄



私の故郷郡上八幡は、夏は日本三大盆踊りの二つに数えられる。郡上おどりで大変賑わいます。特に8月13日から16日の間は、徹夜おどりが行われます。また長良川の鵜飼も有名で、高校時代には長良川河川敷によく足を運びました。

近年、ダイエットを兼ねて100kmウォーク大会参加(2回)。数人で農園作業(ペンギンファーム)。毎年6人で気儘旅行(3回の富士登山、屋久島、東北、北海道など)。今も青春をエンジョイ。明日はどんな日、人生に感謝。

1971年12月、小雪が舞い散る岐阜を出発、天理教越美分教会会長様の車に便乗させて頂き、名阪国道(25号線)経由で初めて天理の地を訪れました。そこから私の天理でのよろづの始まりとなりました。天理衛生検査技師学校を卒業後、1974年4月に憩の家に就職しました。配属部門は臨床病理部の生化学検査部門(bio-chemistry)でした。当時はサンズとミニペットを駆使した「的手法」による超微量定量検査の全盛期でしたが、やがて、1977年ころからは自動分析装置を駆使するシステム検査の時代へと変遷して行

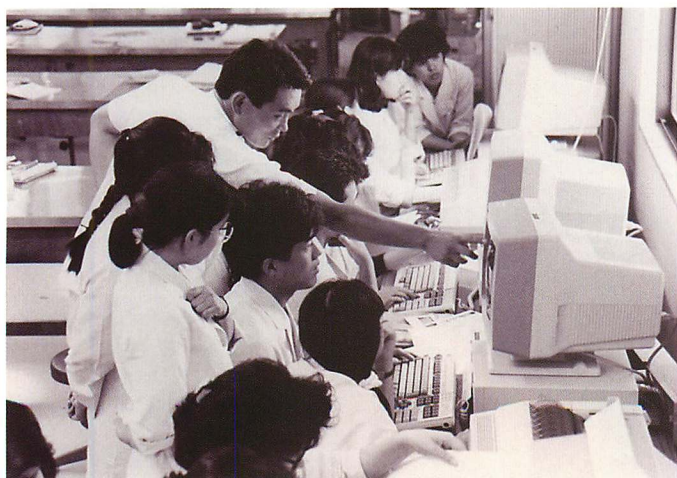
きました。自動分析装置の運転を担当する我々にとっては、反応ラインの調整から点検、保守まで、何かと大変でしたが、そこで多くの事を体験し学ぶことが出来ました。(7年間)

1981年5月からは天理医学技術学校(医技校)の専任教員として赴任しました。学校では臨床化学(clinical chemistry)の講義と実習が中心で、16期生の担任も経験しました。他では決して経験できない事も多々あり、私にとって中身の濃い8年間でした。

その後1989年10月からはMRセンターがオープンするのと同時にMR撮像業務に携わることになりました。業務は臨床検査技師と診療放射線技師の両方で担当する形でスタートしました。そこで私はMRI imaging(MRI)以外に、MRS(MR spectroscopy, chemical shift imaging, 代謝を反映する分子の共鳴周波数とその強度を調べる方法)の習熟と臨床応用への基礎を養うことに没頭しました。当時はまだ研究段階でしたが、今では磁場均一度の向上の簡易化と計測用コイルや解析ソフト等の改良により、日常的に役立つようになり、MRI、MRS両方が臨床検

査技師の日常の仕事となっています。その後2013年4月に定年退職するまでMR撮像業務に携わりました(24年間)。今思えば、憩の家での勤務場所は三度程変わりましたが、すべて「chemical「化学」にまつわる仕事でした。40年間はあつという間で、まさに「光陰矢のごとし」です。

最後に、今回の執筆依頼が届いたのには、上記にあるように専任教員として検査技師教育に携わったことが関係しているのかもしれませんが、新設された天理医療大学の今後の躍進と、真に役立つ天理発信の「医療よろづ」養成を期待いたします。



情報科学実習(第21期生)

48年の時を経て思うこと

元 天理医学技術学校 教務主任

喜多村昭子

臨床病理部の技師として勤務した私が、天理衛生検査技師学校へ異動を命じられたのは、開校2年目の昭和43年秋でした。専任教員はゼロ、学校としての体裁整備も未完成。戸惑う日が続きました。学生は1期生と2期生(69名)が在籍し、昼間は臨床病理部で実習兼お手伝い、夜間は学校で授業という過密日程でした。

それでもどの顔を見ても明るさと、覇気に光る学生たち。このエネルギーは、どこから来るのか。実力ある検査技師を目指す。憩の家の要員になりたい。続いてくる後輩たちに繋げていくのだという意気込みにあると見ました。本校での人材育成の方針が、彼らの進む一生を左右する。この方向付けを任される教員の責任は、重大であると感じ、身の引き締まる思いでした。私は常にこのことを念頭に置きました。

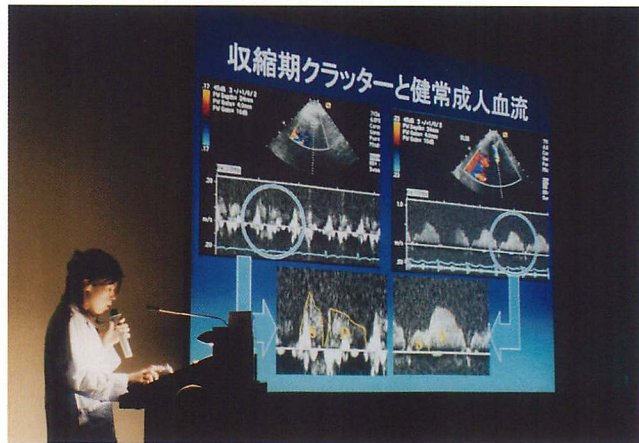
学生には、コンプライアンス意識の高い、磨かれた人格に裏打ちされた、実力のある技師であり、社会人たるこ

とを願いました。その視点からハードな授業内容を編成、実習での妥協を許さぬ指導の外、基本的なマナーでも厳格な教育姿勢を貫きました。社会人教育、国家試験対策の徹底など、どれも教員・学生共に必死の取り組みでした。

病院臨床病理部には、年々、卒業生が憩の家の要員として採用され、徐々に同部からの学生教育の支援態勢もでき、本校の特色である「技師教育は技師の手で」が実現できるようになってきました。先輩のもつ力を、後輩に伝えていくベクトルが形成されるに至りました。臨床病理部が検査業務と同等のウエイトで、学生教育の重責を共有してくれていることが、本校の誇るべき大きな特徴です。このことで検査の現場、教育の現場が議論し合い、医学・技術の進歩、時代の要請に合った教育内容を、柔軟にかつ適正に変化させることが、出来るようになりしました。これが天理出身の技師はどこか違うと言われる所以と信じ

ています。

私は、長年にわたり真に患者の診療に貢献できる技師の育成に微力ながら参加できたことを、誇るべき財産と思っています。



研究実習 研究発表会(3年次)

訂正とお詫び

「一手一ツ」創刊号(2013・1)26発行)7ページ「天理」と私の不思議な「縁」の執筆者名に誤りがありました。椋田高志氏を椋田高士氏へ、ご訂正をお願い致します。椋田氏へは心よりお詫び申し上げます。

編集後記

ようやく同窓会報第二号の編集作業が終わった。天理医学技術学校は着々と閉校へ向かって歩んでいる。木造の校舎で学んだ私。今は鉄筋コンクリートに立替えられて、天理医療大学と共存している。「天理スピリッツ」。世界中に此処にしかない、眼に見えないもの。50年間培われてきた天理医学技術学校の伝統は四年制大学という新しい形をとって、眼に見えない「天理スピリッツ」と共に継承されていくものと信じる。(小松 方)



天理医学技術学校 旧校舎